

フリガナ	オオタニ シュウジ		学部 学科など	教育学部
氏 名	大谷 修司		職 名	教授
			講 座など	自然環境教育講座
専門分野	・ 微細藻類の分類学	その特徴	藻類の培養を行ない、その形態と生活史の観察により分類を行なっている。特に、 緑藻、黄緑藻を中心として研究 を行なっている。 宍道湖・中海からは珪藻と渦鞭毛藻類の培養株を保存 している。	
研究テーマ	・ 『宍道湖・中海水系の植物プランクトンの分類およびモニタリング』 ・ 『極域の淡水藻類の分類』 ・ 『南極昭和基地の土壌藻類のモニタリング』	その特徴	・ 島根県保健環境科学研究所の協力をえて、1994 年より、毎月一回実施している。珪藻と 赤潮を形成する渦鞭毛藻類 の優占種について分類学的再検討をすすめている。 ・ 南極や富士山の土壌より藻類を分離培養し、分類学的研究をすすめている。 ・ 昭和基地周辺の人為的影響を調べるために毎年、南極観測隊によって採集された土壌を培養し分類を行なっている。	
可能な共同研究・地域連携	・ テーマ・項目：淡水産、汽水産微細藻類の分類同定、培養株の供与 ・ 要望事項：			
可能な科学技術相談	・ 項目：淡水藻類、汽水域の藻類（植物プランクトン）の分類に関すること			
キーワード	微細藻類、植物プランクトン、赤潮、分類、培養、汽水域、南極、宍道湖、中海			

* 研究のポイント

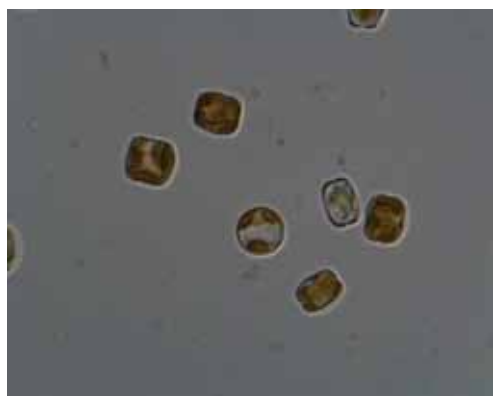
私の主な研究は淡水産微細藻類の分類です。基本的に、野外から採集した標本と、その培養株を用いてその形態の観察から分類を進めています。

おもな研究地域は、宍道湖・中海と南極です。私は島根大学に赴任する前に国立極地研究所に勤めていたこともあり、昭和基地で越冬一回を含め計 3 回南極で研究をしています。そのため、南極の淡水産藻類の分類が研究テーマのひとつであり、南極生物に関する資料も収集をしています。

島根大学に赴任後は、宍道湖・中海の植物プランクトンの種類の同定と細胞数の計測を毎月 1 回行なっています。本水系の優占種の珪藻 *Cyclotella* 類と赤潮を形成する渦鞭毛藻類の *Prorocentrum minimum* については分類学的再検討の必要があり、特にこの 2 つの分類群に焦点をあてて研究をしています。

学位論文はチリモ類の一種の分類学的再検討であったため、チリモ類の仲間であるミカヅキモに深く興味をもっており、松江周辺の放棄水田に毎月でかけて野外観察を行ない、その培養株を用いて生活史の研究を進めています。このミカヅキモは水の枯れる夏は休眠し、放棄水田に水がたまり始める 11 月から 5 月頃に繁殖をする種類です。20℃を超えると急に増殖が悪くなります。

研究室で保存している培養株は南極の土壌より分離した緑藻、黄緑藻が最も多く、ついで、日本産のミカヅキモです。宍道湖・中海水系からは珪藻の *Cyclotella* 属と *Prorocentrum* 属を数株ずつ保存しています。希望があれば培養株の譲渡が可能です。



宍道湖産 *Cyclotella* の培養株（細胞の径は約 10 μm）



中海産の *Prorocentrum minimum* の培養株（細胞の長さは約 20 μm）